

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 上幌向		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体面・精神面において不安がなく、楽しみを持ちながら生活が送れるように努めている。そのため毎日の水分摂取量・食事量・排泄回数などの把握を行い、医療関係との連携も図り、24時間体制で医師からの指示を受ける、又は相談が出来る体制が整っている。通院の際の情報提供や服薬管理、副作用などについての配慮にも努めている。緊急時の対応のために、職員が駆けつけられる体制を構築し実践している。毎日のレクリエーション活動を行うことで、楽しみを作ると同時に筋力の維持・向上を図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0195700034-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年12月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR上幌向駅から徒歩数分の位置にある2階建て2ユニットのグループホームである。建物は新しく清潔で、共用空間が広く、窓も大きくて開放的である。床からの暖房で部屋全体が温まり、快適に過ごすことができる。トイレや洗面台の数も十分で、浴室も使いやすく造られている。室内は段差もなく、手すりも十分に設置されバリアフリーが行き届いている。玄関付近の共用空間の壁を活用し、理念のほか、アンケート結果とその取り組み、サービス評価に対する取り組みなどを掲げ、職員だけでなく家族とも情報を共有するように努めている。また、職員同士のコミュニケーションが良好で、利用者に対するきめ細かなケアにつながっている。職員は行事や食品、安全対策、備品などの委員会に所属して積極的に運営に参加している。地域との交流も活発で、文化祭や盆踊りに参加したり、小中学校の生徒やボランティアの来訪も受け入れている。個別の外出にも力を入れ、馴染みの美容院や喫茶店、ラーメン店、文房具店、日帰り温泉などへの外出を支援している。年間行事でも花見や紅葉見学、初詣、夏祭りなどに出かけている。医療面では、提携医療機関による2週に1回の往診のほか、個々の通院においても支援体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月ケア会議の中で全職員が復唱する機会を設け、理念を再確認し、ケアに活かしている。	事業所独自の基本理念の中に「家族と地域に支えられ」の文言があり、地域密着型サービスの理念として確立している。理念は共有スペースに掲示し、毎月の会議でも唱和している。また、理念を書いたカードを職員が携帯している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度より町内会に加入したことで、町内会のイベント情報を回覧・参加、または報告に来て頂けるようになりました。散歩の途中では地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアさんがホームで催し事を行ってくださるようになった。	昨年町内会に加入し、文化祭に参加している。事業所主催の盆踊りを駐車場で早い時間から開催し、地域の方に参加してもらっている。小中学校の生徒の来訪もある。歌や踊り、草むしりや花植えのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者状況の説明を行ったり、近隣の小中学生の介護施設見学や入居希望者の見学は常時受け入れ、質問・相談があれば応じるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの参加メンバーが固定してきており、少しずつGHの実情が掴めてきた様で、意見も出せるようになってきている。課題は家族の参加率が低いこと、参加出来る曜日・時間などを聞いて反映させているものの、参加率が伸びていない現状がある。	会議は2か月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会福祉部長、ボランティア、利用者家族などの参加を得て、行事や活動、外部評価の報告を行っている。また、議事録を全家族に送付している。一方、会議のテーマを計画的に設定し、話し合う取り組みは十分といえない。	参加者の意見をより多く引き出したり、会議への関心を高めるため、年間を通してテーマを設定する取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方に現状を伝え相談など話し合いの機会を設けて頂いたり、各種ホームで使用する様式のものには包括等の機関への相談も行っています。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得て意見をもらっている。また、介護保険の申請時などに役所に出向き、相談している。市議会議員の見学受け入れを行うこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修を受けて発表したり、毎月行われるケア会議で、入居者の行動や特性を十分把握することで、身体拘束や自由を奪わないための統一したケアを実施している。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルが整備され、法人が合同で行う身体拘束の勉強会に全員が参加し理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に入出りできる。出入りがあれば内扉のセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホームの安全対策委員会で虐待や身体拘束のない統一された話し合いを行ったり、毎月行われている職員研修のテーマで取り上げ、そのようなことがないように徹底している。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している職員はいるものの、対象となる利用者がいないこともあり、全職員が十分理解していると言えないので、必要な入居者がいる場合すぐに対応出来るように、研修やホーム内での研修テーマとして取り上げて行く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、身元引受人、連帯保証人なども含め、複数名の中で契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際に会話の機会を設け、意見や要望等が出た場合には管理者や計画作成者、職員で意見交換を行い可能な限り反映できるようにしています。	家族の来訪時や運営推進会議で家族の意見や要望を聞いている。法人が家族アンケートを年2回実施しており、その内容に基づき、事業所で改善したり取り組んだ内容を共用部分に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を行い、意見や要望を聞き、運営に反映出来るようにしています。	毎月のユニット会議とカンファレンスの中で、職員は活発に意見交換している。また、管理者と職員の個人面談も随時行っている。ホーム内に行事や食品、安全対策、備品などの委員会があり、職員が所属して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の中で、目標を設定しやりがいを持てる環境作りに、ケア会議を通じては業務改善等について職員全員で話し合うことで作業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、研修の機会を作っています。また、外部研修のお知らせを職員休憩室で行い、興味を持って参加出来る支援を心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加、同じ法人系列での合同研修を通じ、交流の機会を作れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人を中心として問題となる点、不安に思っている点を本人から聞くようになっている。また、入居してからすぐに人間関係が築けるように、入居者の生活歴は勿論の事、興味のあることを全職員が把握し、積極的に話しかけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームでの生活をどのように期待しているのかを細かく聞き出し、対応出来る点を確認し、対応困難な点はどのように対応出来るかを話し合い、家族の期待している生活に近付けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報にとらわれず、実際に本人が出来る事、出来ない事を見極め、出来ない事でも本人が以前行っていた事、または興味を示す事については長期的に支援し、「生きがいがいい・やりがいがいい」に繋げられるようにプランに盛り込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活してる仲間として、掃除や食事の準備を協働して行い、その中で入居者から教わることも多く、人生の先輩として敬意をはらい参考としている。一日を通して入居者からねぎらいの言葉を頂けることも多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の個別報告書の他、来訪時には本人の生活の様子や今後予測される状況について説明し、家族の想いを聞きながら、支援方法やプランに反映出来るように協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた床屋に1~2か月に1度行ったり、地元的美容室に通うなど、地域関係を大切にしている。ホーム近くから入居されている方も多いため、地元のボランティアを招き、関わりが途切れないようにしている。	利用者の知人や友人が来訪し、一緒に外食に出かけることもある。職員は、利用者の希望に応じて電話を掛けたり、手紙を書く手伝いも行っている。馴染みの美容院や喫茶店、ラーメン店、文房具店など個別の外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動を通して、利用者の個性を把握し、利用者同士の関係を築いて頂いている。利用者間でトラブルがあった際は、職員が仲介に入り、トラブルが大きくなるようにしている。また、個別に相談にのる事でストレスの軽減、孤立感の解消を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も色々な相談に乗り、協力できる内容については積極的に協力している。また、他の事業所へ移られた際は家族の許可の元、今までの生活の様子や嗜好の部分も情報として伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴・生活背景や嗜好を把握することは勿論の事、本人の表情や行動で何を訴えたいのかを読み取ることや、時には家族とも相談しながら、本人の意向や希望にそえるようにしている。	言葉で思いや意向を表出するのが難しい方も、表情や過去の経験から把握している。基本情報、フェイスシート、課題分析シートを更新しながらカンファレンス等で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族は勿論の事、友人・知人からも生活歴や生活背景・本人の性格や嗜好を聞きとり、把握に努めている。また、把握し支援することの重要性も家族に伝え、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事に注目し、食器拭きや掃除などを一日の生活の中に取り入れることで、生きがいに繋げ、その事を踏まえて一日の過ごし方を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のちょっとした気付きを大切な情報として捉え、ケア会議でのモニタリング、三ヶ月に一度の家族へのプラン説明・変更を行い、その中で職員からのアイデアや家族の希望を参考としケアプラン作成に反映させている。	介護計画は概ね3～6か月で見直しを行っており、変化があれば随時の見直しも行っている。毎月のカンファレンスで全利用者のモニタリングを行っている。また、日々の記録も介護計画の目標に対する実践内容を記録するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や行動・言動を個別記録に記載すると共に、支援してどのような反応があったのかを記録するようにしている。また、普段と違うことがあった際は全職員が把握出来るように「連絡ノート」を活用して情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々変わる体調などを考慮して、重病になる前に受診するなど臨機応変に対応し、本人の病気の早期発見、時には家族と待ち合わせを行い受診するなど、家族の安心に繋がれるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や訪問歯科の活用、福祉用具の紹介などを行い、安全・快適に過ごせる環境を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が信頼をおいて長年かかっている、かかりつけ医のいる病院に受診している。基本的に通院に関しては職員が対応するが、家族から同行の希望があれば待ち合わせなどして受診している。	提携医療機関による2週に1回の往診を受けており、その他のかかりつけ医や内科以外を受診する場合も事業所で通院を支援している。受診内容を往診記録や通院の病院受診記録に記載し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診を受けている方は、体調に変化がある際、都度看護師に報告・指示を受けるように連携を取っている。また、些細なことでも連絡ノートを活用し、その日の体調変化を記録し把握している。それ以外は受診時に1ヶ月のバイタルデータを見せ説明・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの生活リズムを伝え、入院中も生活の障害が最小限になるように努めています。また、面会を通し、看護師から情報を聞き、受け入れ態勢を整える様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をし、要望を聞いています。	利用開始時に、重要事項説明書の中の「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印をもらっている。実際に重度化した場合は、医師や家族と相談の結果、入院となる場合が多く、事業所での看取りは経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、緊急時に備えている。急変時持ち出しファイルを作成している。担当医師から特変時の対応を説明を受け、職員全員に把握出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と、定期的な消防器具の点検を実施しています。災害対策は運営会議を通し、話し合いをしています。	年2回、各々昼・夜を想定した避難訓練を行い、職員の救急救命訓練の受講も行われている。災害時に必要な備品は、法人のプロジェクト会議を通して検討中である。地域との協力体制も現在構築中である。	災害時に必要と考えられる保存食等の準備を期待したい。また、災害時の地域との協力体制について、具体的な内容も含めて構築を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに誘導する際は別な話題で声かけ・誘導を行い、入浴時は人目に触れないように配慮することは勿論の事、個人の意見を尊重し、同性介助を行っている。	職員は、利用者に尊敬の念を持ち、呼びかけは、名字か名前に「さん」付けとし、言葉遣いが気になる場合は、職員相互で注意し合っている。個人ファイルは安全な場所で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を選ぶ際には現物を見て頂き選択してもらい、嗜好やレク活動なども複数の選択肢の中から選んでもらったり、表情などを読み取って自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れはあるものの、本人の体調に合わせて、居室で休んで頂いたり、入浴日を変更したり、何か訴えようとしている時はその場でゆっくり話を聞く時間を取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に本人の行き慣れた理容室に行ったり、特にモーニングケアの際は季節に応じた服装、鏡を見ながらスカーフなど小物を使ったオシャレが出来るように気をつけている。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・後片付けなどを手伝ってもらいながら、食事中は静かに食べたい方、会話を楽しみながら食べたい方など席も考慮している。食事では盛り付けやホームの畑で採れた食材を使うなどの工夫もしている。	利用者の体調や身体能力に応じて、調理や盛り付け、後片付けを手伝ってもらっている。行事食などは特別メニューとしている。菜園で収穫された新鮮な野菜も食卓に上り、職員も会話しながら一緒に同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・栄養バランスは管理栄養士が管理し提供しています。また、食事は個人の疾病などに応じキザミ食・減量食など個別で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の清潔保持能力に応じて介助しており、嚥下障害を抱える入居者に対しては、スポンジなどを利用し舌苔除去・肺炎防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意をあまり感じない入居者に対しては、排泄パターンを把握し、時間を見て誘導し、トイレでの排泄を促している。	「水分・排泄チェック表」でパターンを把握してトイレ誘導しているので、殆どの利用者がトイレで排泄している。誘導の際は直接的な表現は避け「少し歩きましょう」などの言葉掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操・散歩などの運動を取り入れながら、水分摂取量を徹底して管理している。また、食物繊維を摂取しやすい硬さや大きさに工夫し提供し、個々に応じて乳製品の摂取を勧め、予防に役立っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが、その日の体調や気分に応じ、入浴時間の変更や入浴日の変更をし、柔軟に対応出来る体制を整えている。また、どうしても入浴出来ない時は足浴や清拭などで対応している。	毎日、午後の時間帯に入浴できるが、希望すれば午前中でも対応できる。ほぼ1日おきに入浴しているが、毎日入浴している利用者もいる。入浴拒否の際は時間をおいて声がけしたり担当者を替えるなどで上手に対応している。2人介助、同性介助で対応したり、保湿性のある入浴剤も利用して楽しく入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや散歩などの日中の活動を多くし、生活リズムが整うように支援している。夜間眠れない時は温かい飲み物や悩んでいる相談を受け、安心して休める環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を個別ファイルに保管し、全職員が目を通せる状態にしている。また、薬の変更や注意事項の説明がDrからあった際は連絡ノートに薬剤の効果・副作用・注意事項を記載して把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、掃除や食事準備など本人の得意とすることをお手伝いして頂いている。レクなどの活動場面では昔ながらの遊びや歌などを取り入れ、楽しんで頂けるように配慮している。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得て、お墓参りや帰宅、家族のお見舞いなど行い、日常的にも散歩をすることで四季を感じて頂いたり、車椅子でも出かける機会を設けている。本人の嗜好も考慮し、本人の希望があれば個別に外出に出かけている。	天候の良い時期には事業所周辺や近くの公園を毎日でも散歩している。また、近隣の温泉に予約制の福祉浴があり、希望者が利用しているが好評である。また、車で大型ショッピングセンターに買物に行ったり個別に外食を楽しんでいる。市内を中心とした外出行事も盛んで、冬期も可能な限り外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いの結果、全て事務所の一時立替となっているが、切符を購入するなどの時は本人に支払いを行ってもらうように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	悩みを抱えている時は家族に積極的に電話することを勧め、ホームで一番静かで、プライバシーが保てる事務所を提供し電話を利用して頂いている。また、手紙を定期的を送っている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、入居者が以前作った物を飾ったり、季節に応じたシンプルな装飾を入居者と一緒で作成し、装飾するように心がけている。照明なども光が強く刺激しないような色で落ち着いたものを使用している。	玄関、居間、廊下など全体が広く窓も大きく開放的である。床暖房で部屋全体が温まり、空気清浄器や加湿器も設置され快適に過ごすことができる。トイレや洗面台も広くて数も十分であり浴室も使い易い。廊下には利用者が書いた上品な色紙が飾られ、居間には季節の飾り付けもなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアから離れたところに椅子を設置し、外を眺めながら休めるスペースを作っている。また、玄関ポーチにはベンチを用意し、自由に行けるようにしている。事務所も自由に出入り出来るように開放している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談し、使い慣れた物を使用することを促し、仏壇やタンスなど馴染みの物を揃えて落ちつける環境を作っている。夫婦で利用されている方は居間と寝室に分けて使用している。	居室入口には、職員が工夫した写真フレームや、ホーム長のご主人が作成した飾り物が掲げられており楽しい雰囲気が演出されている。室内には家族の写真や好みの品が飾られ、馴染みの家具も設置され、安心して暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に障害となるものは置かず、トイレの標識や場所を特定するのに分かりやすいように照明を当てるなど工夫している。トイレには車椅子でもスムーズに移動出来るスペースがある。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 上幌向		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0195700034-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えています (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーの見える所にも掲示しているが、個別に理念をカード形式にして常日頃持ち歩き復唱出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板にて情報を知り町内の行事に参加している。散歩の途中でも町内の方に声をかけてくださったり、地域のボランティアさんがホームで催し事を行ってくれるようになりました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者状況の説明を行ったり、近隣の小中学生の介護施設見学や入居希望者の見学は常時受け入れ、質問・相談があれば応じるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの参加メンバーが固定してきており、少しずつGHの実情が掴めてきた様で、意見も出して頂けるようになってきている。課題は家族の参加率が低い。ため、参加出来る曜日・時間などを聞いて反映させているものの、参加率が伸びていない現状がある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方に現状を伝え相談など話し合いの機会を設けて頂いたり、各種ホームで使用する様式のものには包括等の機関への相談も行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修会に参加し、身体拘束のないケアに対して理解を深めている。参加者は、ホームで開かれる勉強会にて、他の職員に報告する場を設けており、更に意識啓発している。日中、暖かい日には戸を開け放していることも多く、自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同じく、研修会・勉強会において、学ぶ機会を設けており、理解浸透に努めている。また、安全対策委員会を設置し、毎月話し合いをもち、未然に防ぐように努めています。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深めるようにしているが、今のところ、成年後見が必要なケースはない。日常生活自立支援に関しては、金銭管理の支援や、病院受診に同行するなどして、情報提供・代行・代理などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、身元引受人、連帯保証人なども含め、複数名の中で契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際に会話の機会を設け、意見や要望等が出た場合には管理者や計画作成者、職員で意見交換を行い可能な限り反映できるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を行い、意見や要望を聞き、運営に反映出来るようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の中で、目標を設定しやりがいを持てる環境作りに、ケア会議を通じては業務改善等について職員全員で話し合うことで作業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、研修の機会を作っています。また、外部研修のお知らせを職員休憩室で行い、興味を持って参加出来る支援を心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加、同じ法人系列での合同研修を通じ、交流の機会を作れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状況を把握している。入居前には、短時間、遊びにきて頂き、雰囲気を感じてもらうこともしている。入居後も、日々の生活の中で、聞き取りを行い、不満や要望をくみ取るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解するため、ケアプラン作成前には、話し合う時間を設けている。入居後の様子などを、電話で報告し、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の時点で、他サービスを利用中の場合には、担当ケアマネ等から話を聞くなどし、家族状況なども踏まえ、サービスを開始するの判断しています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側・される側という意識ではなく、お互いができない部分を補っていることが多くある。たとえば、掃除用の雑巾を縫ってもらい・繕ってもらいなど、日々の暮らしの中で利用者に教えてもらう場面が多い。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事や気づき・変化を、ありのままに伝えるようにしている。毎月のご家族への報告のお手紙は、担当職員が書いており、ご本人の日々の思いを、ご家族に伝える機会としている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居年数が経つにつれ、ご家族以外の来訪は減ってきている。ご友人との食事など、事前に電話でやり取りし、ご家族にも相談しながら、不安なく外出できるように支援している。電話や手紙は取り次いでいる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルに発展しそうな時には、別々に話を聞き、職員でできる範囲の対策は行っている。食事の席をかえてみるなど。他には、仲の良い利用者同士で出かける機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられ退去したケースのご家族と出会った際には、以前仲良くされていた方のお話しを通し、ホームとの関係を断ち切らない様な支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他の入居者を気にしないで話せる場所を作る事で、意向を聞きやすい環境整備に努めています。また、意思の疎通が難しい場合には、ご家族や関係者から情報を得ることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供では、趣味や宗教、出生などをご家族にご記入いただき、本人の把握に努めています。また、ご家族等との面談で、これまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や小さな動作・表情から心身状態を把握している。食事や睡眠・排泄などのチェック表から、1日の本人の全体像を掴むようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前には、ご家族と話す時間を設けている。ご本人の希望と、現状に差がある場合もあり、日々の暮らしの中で、できることに着目し、それを介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量・排泄・身体状況も含めて、日々の暮らしのエピソード・本人の言葉を記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助をしている。ご家族が来訪された時には、一緒にテーブルを囲み、食事をするこもあつた。可能な限り、柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員や町内会、地域包括センターの方も参加しているので、周辺情報や支援に関する情報交換ができています。SOSネットワークにも情報提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通っていた病院に、継続して受診している方もいる。普段の様子や変化などを伝えるなど、職員が受診介助を行っている。往診も利用し、適切な医療を受けることができるようにしている。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診先の看護師に、利用者の身体状況に変化があった場合に連絡をとり、気軽に相談が出来るような関係を構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの生活リズムを伝え、入院中も生活の障害が最小限になるように努めています。また、面会を通し、看護師から情報を聞き、受け入れ態勢を整える様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をし、要望を聞いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習は受けていない職員もいるが、入社時には、緊急時のマニュアルが渡されている。また、緊急時持ち出しファイルを作成しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と、定期的な消防器具の点検を実施しています。災害対策は運営会議を通し、話し合いをしています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導などで援助が必要な際は、さりげなく誘導するように努めています。また、生活の中で、自己決定が出来る環境作りを行ない、それに合わせた声かけが出来る様にしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が難しい方など、自己決定できる場面が少ない利用者もいる。利用者によっては、理念にもあるように、喜怒哀楽を出せる場面は多々ある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、その日のコンディション・様子に合わせた対応を心がけている。時間的には、限られていることが多く、心ゆくまで外出したり、会話を楽しむまでには至っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい服装を続けられるよう、毎朝の更衣で支援している。月に1度、訪問理容を利用している。毎日の整容。整髪・服装の汚れには、目が行きとどかない場面もあった。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは栄養士がたてており、職員で決める機会は少ない。外食をすることの楽しみを作り、変化をつけている。利用者が食事作りに参加することは少ないが、後片付けは毎日している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算をし、献立をたてている。利用者1人1人が水分・食事をどのくらい取れているか、職員は把握できるようになっている。嚥下に問題のある方には、トロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけ見守りし、できない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮した声かけや誘導を行い、身体機能に応じて、手を差し伸べたり、歩行介助をしている。排泄チェック表を利用し、尿意のない方にも適切な誘導ができるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録している。水分量の見直し、乳製品も取り入れるなどしているが、同時に下剤も併用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴する時間を設けており、曜日で入浴する方を決めてはいない。たとえば、午後に行事を控えている時でも、午前中に入って頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない時は、ホットミルクを提供したり、職員と一緒に居間で過ごすこともある。夜間の入眠に繋げるため、日中は散歩に誘導し、陽を浴びてもらうこともあった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のファイルを作っており、確認できるようになっている。薬の量の一覧表も事務所に貼ってある。薬の変更があった時には、職員に周知し、記録に取り、様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝のことは伝えるようにしている。毎日の役割に当番制を導入し、偏らないよう配慮もしている。		

ふれあいの里 グループホーム 上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に行事委員会に参加してもらい、意見・要望を聞く場を設けている。その日の希望によって、という突然の外出はほとんどないが、前もってご家族にもお話し、外出している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホーム側で立て替えている。お金をお渡しし、支払をして頂く場面を、今後多く作ってきたい。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号が押せない時には、代わりに押している。手紙は送られてくるが、利用者から送ることはなく、その機会も設けていなかった。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の掃除は、念入りに行っており、清潔を保つようにしている。ポットを置き、利用者自ら、お茶を入れることができるようにしている。あまり頻繁に家具の配置は変えず、変化に弱い方のために、いつもと同じ場面であることを心がけている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットに死角がなく、1人になるためには、居室に行くしかなかったが、新たに休憩スペースを作り、利用者が単独、または仲良しの方と少人数で楽しめる場を作った。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い馴れたものを持ってきて頂くようにしている。ベッドで過ごす時間が多い方には、壁にご家族の写真を飾るなどしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置で迷う利用者は、現在いないので、案内表示は取り外した。麻痺のある方用に、健側の手で捨てやすい場所にゴミ箱を置くなど、個々にあった取り組みをしている。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム上幌向

作成日：平成 24年 12月 18日

市町村受理日：平成 24年 12月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の備蓄品(食糧、介護用品)が用意出来ていない。また、災害時地域との具体的な協力体制を構築出来ていない。	災害時必要物品がすぐに利用出来るシステムを作ること、災害時は避難誘導や見守りなど地域の方の協力が得られるシステムを構築する。	会社のマニュアルで備蓄品を用意せず、災害のない地域から物資の供給をするシステムがあるため、それを利用するが、連絡方法などのマニュアルが用意されていないため準備する。町内会会議に出席することや運営推進会議の場で災害時の連絡網作りなどの提案をしていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。